

ひと目で  
分かる!

# 南京問題詳細年表

一九三七年

七月二十九日

通州事件。日本人居留民約二百六十人が惨殺される \*1

八月四日

「船津和平工作」成立 \*2

八月九日

大山事件 \*3

八月十一日

シナ軍の偽装保安隊が上海停戦協定を無視して協定線内に侵入、陣地構築を開始

八月十三日

上海でシナ便衣隊が日本の警備兵に発砲、日本軍応射せず。夕方、再びシナ軍砲撃開始、日本軍はシナの拠点を焼き討ち

八月十四日

シナ爆撃機が上海の日本の陸戦隊や市街地、共同租界、フランス租界を爆撃。それを受け日本軍もシナ空軍基地を爆撃

十一月五日

日本は和平仲介をドイツに依頼。トラウトマン中華大使を通じて和平条件を提示。蒋介石はこれを拒絶

十一月十一日

蒋介石が南京死守を決定。唐生智が南京防衛軍司令官に

\*1 盧溝橋の近くの通州という町で

「盧溝橋事件」直後に起こった日本人虐殺事件。眼球を抉り出したり、腹を割って内蔵を引き出したり、陰部を切り取るなど中国軍の伝統的な猟奇的な殺し方だった。そのあまりの残酷さに日本の世論が沸騰し、南京攻略の動機の一つとなっている。ただし、なぜかこの事件は日本の歴史教科書には記述されていない

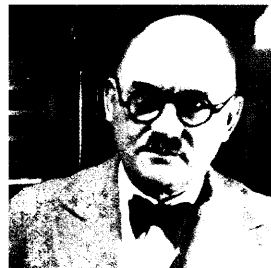
\*2 日本は満州事変以後得た諸権益を全て放棄、シナは満州国を黙認し反日運動を取り締まる

\*3 大山勇夫中尉が上海でシナ保安隊に包囲され機関銃で撃たれ頭を青竜刀で

# ●南京問題詳細年表

二月二日	就任
二月二日	上海陥落
二月一九日	南京在住の欧米人十五人からなる国際委員会が発足。委員長はジョン・ラーベ
二月二三日	国際委員会是一般市民の避難地帯を構想、中立地帯「安全地帯」を公表
二月二三日	「記者会見」が始まる。南京陥落前夜まで毎日行われた
二月二八日	王固警警察庁長官が「南京にはいまだ二十万人が住んでいる」との談話発表
二月七日	蒋介石が飛行機で逃亡
二月八日	南京攻撃開始
二月九日	松井石根司令官が降伏勧告文を出す
二月一〇日	降伏勧告文の回答期限正午になっても回答なし
二月二二日	唐生智が撤退命令を出す。唐生智自身は逃亡 *4
二月二三日	南京陥落
	東京日日新聞（現・毎日新聞社）が向井・野田両少尉の百人斬りを報道
	ニューヨーク・タイムズがパネー号撃沈とレディーバー

割られる。和平工作は中止に



ジョン・ラーベ

\*4 司令官が逃亡した後の中国軍は指揮系統が乱れに乱れ、無秩序状態に陥り、中国軍正規兵と日本軍との戦闘が継続されることになる。これが「大虐殺」説が出てきた一つの原因でもある

ド号攻撃の記事を大きく扱う。この間、南京については全く報道されず

二月二七日 午後一時三十分、日本軍入城式

朝日新聞で従軍記者九名による紙上座談会 \*5

二月一八日 ロンドン・タイムスが南京について「(十二月)十四日

……通りには死体が散在したが女性の死体はなかった」と報道

二月二日

東京朝日新聞「抗日のお題目忘れた南京住民／日毎加わる親密さ／『奈良の鹿』偲ばせる配給風景／敵首都に皮肉な明朗」との記事掲載 \*6

二月二四日

第十六師団が平民分離に着手。安全地帯に多数の中国兵が潜伏していたため \*7

一九三八年

一月二日

ノース・チャイナ・デイリーニュースが不法殺害者数を一万人と報道

一月二六日

アリソン殴打事件発生。ニューヨーク・タイムスもロンドン・タイムスも大きく報道。南京については報道されず

二月二日

第百会期国際連盟理事会で顧維鈞中国代表が「南京で二

\*5 記者たちが大砲や銅像を見て回っていた様子が語られている。「事件はなかった」と証言している記者も

\*6 〔南京にて森山特派員十九日発〕南京の街には早くも戦後の平和が甦ってきた。皇軍が入城して丁度一週間目の十九日支那人街をぶらぶら歩いて見る。(中略)

初めのうちは彼らも日本人を見るとこそそこそと壁の蔭に隠れたものだがこの頃はすっかり日本の兵隊さんと仲良くなり兵隊さんが通りかかると「先生々々」とニコニコ顔で何か用事を言付けて呉と寄って来る程である。(後略)

\*7 一般市民の避難場所である中立地帯「安全地帯」に軍服を脱ぎ市民に化した中国兵が潜伏。日本軍にも一般市民にも危険であるため摘発に着手

# ●南京問題詳細年表

一九四五年

八月一五日

一二月八日

万人の虐殺と数千の女性への暴行があった」と演説。国際連盟の「行動を要求」するも採択されず

三月一九日

チャイナ・フォーラムが八万人を不法殺害と報道

六月八日

ジョン・ラーベがヒトラー宛の上申書で「中国側の申し立てによると十万人の民間人が殺されたそうだが、我々外国人は五万から六万と見ている」と述べる \*8

七月

英マンチェスター・ガーディアン紙中国特派員のハロルド・ティンバリー編「戦争とは何か―中国における日本軍の暴虐」発刊。「華中の戦闘だけで中国人の死傷者は少なくとも三十万人を数え、ほぼ同数の民間人の死傷者が発生」と記述

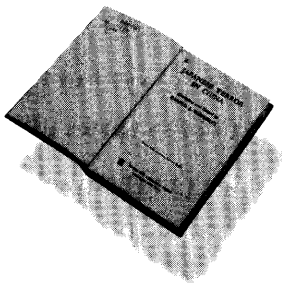
マイナー・ベイツ南京大学教授は「戦争とは何か」内に匿名で「埋葬証提は非武装の四万人近い人間が城内や城壁の近くで殺されたことを示しており、そのうちの約三割は決して兵士ではなかった」と記述（いわゆるベイツの「メモランダム」） \*9

大東亜戦争終戦

朝日新聞が南京事件の被害者を二万人と報道 \*10

\*8 ジョン・ラーベはジーマンス社南支社長でナチ党员

\*9 しかし、その後四度にわたって中国大陸で刊行された他の英語本にこの「メモランダム」が転載された際、この一文が削除されていた。また「戦争とは何か」の漢訳版からもすっぱりと削除されている。ベイツは中華民国政府の「顧問」だったことが明らかになっている



ティンバリー編「戦争とは何か」

一九四六年

二月

南京地方法院檢察処敵人罪行調查報告で「被殺者確數三十四万人」と記述

五月三日

東京裁判開廷

九月

罪行調査委員会で被害者数三十九万一千七百八十五人と報告

ベイツが東京裁判で不法殺害四万二千人のうち、一万二千人が民間人、残りの三万人は捕虜殺害だと証言 \*11

何応欽軍政部長が各年別死傷者統計を東京裁判へ提出。

「一九三七年の戦死者が十二万四千三百三十人、負傷者が二十四万三千二百三十二人」

一九四七年

谷寿夫第六師団長に対し中国軍事法廷判決では「集団殺害十九万人以上、個別的殺害十五万人以上、計三十余万人」と認定

一九四八年

一月二十八日

百人斬り報道をされた向井・野田両少尉、南京軍事法廷で死刑判決。銃殺刑に処される

一月

松井石根大将に死刑判決。個人として「十万人」の虐殺と、南京攻略戦司令官としての「二十万人」の虐殺の罪

\*11 その後、捕虜の殺害数を三万五千と修正



向井・野田両少尉

# ●南京問題詳細年表

一九五二年	二月三日	を問われる *12
一九五五年	松井石根大将が絞首刑に処される 日本近代史研究会編『画報近代百年史 第十五集』(国際文化情報社) 発刊 *13	*12 訴因第五五・条約遵守の責任無視、ただ一つを問われての絞首刑。松井大将は二、三度軽く頷いたという
一九五六年	秦郁彦『昭和史』(岩波書店)に「市民の被害は死者一万二千ないし四万二千の範囲と推定される」との記述 エドガー・スノー『現代史大系3 中日戦争 アジアの戦争』(みすず書房) 発刊 *14	*13 従軍記者であった不動健治氏の捕虜收容所の写真が初めて登場する。不動氏が「虐殺」写真と主張するものについては、東中野修道氏の研究で証拠に値しないと検証された
一九六三年	田中正明『パール判事の日本無罪論』(慧文社) 発刊 *15	*14 国民党政府軍事委員会政治部編『日寇暴行実録』からの写真の引用があるが、原書に写真の掲載はない
一九六六年	五島広作(毎日新聞記者)と元第六師団下野一霍の共著『南京作戦の真相』(東京情報社) 発刊。南京作戦における第六師団は軍紀厳正と主張 洞富雄(早稲田大学教授)『近代戦史の謎』(人物往来社) 発刊。日本の残虐行為に言及	*15 田中正明氏は松井石根司令官の元秘書
一九六八年	家永三郎、『太平洋戦争』(岩波書店)に「中国人数十万人を虐殺」と記述	
一九七一年	二月	本多勝一「中国の旅」、朝日新聞に連載開始。逃げてい

一九七二年

九月二十九日

く市民を切り殺す日本軍と記述 \*16

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社出版局）発刊 \*17

日中国交回復。日本は空前の中国ブームに

佐々木元勝『野戦郵便旗―日中戦争に従軍した郵便長の記録』（正・続／現代史資料センター出版会）発刊

洞富雄『南京事件』（新人物往来社）発刊。「三十万人、

三十四万人という数字が実数に近いのではなからうか」

歴史学研究会『太平洋戦争史』第三巻（青木書店）が上海から南京の中国兵死傷三十万、非戦闘員もほぼ同数と

記述

鈴木明『南京大虐殺』のまぼろし』発刊。大宅壮一ノンフィクション賞を受賞 \*18

山本七平『私の中の日本軍』（文藝春秋）で「百人斬り」批判。向井・野田両少尉の職務から考えれば実行できな

いと主張

南京事件を取り上げた教科書が、中学、高校で各一社となる（それまでは皆無）

一九七五年

洞富雄『南京大虐殺―「まぼろし」化工工作批判』（現代

\*16 百人斬りに関しても「捕虜すえも

の斬り」などと主張を変える。朝日新聞は積極的に南京について報道

\*17 『戦争とは何か』の漢訳版や、『日寇暴行実録』（国民政府軍事委員会政治部編）

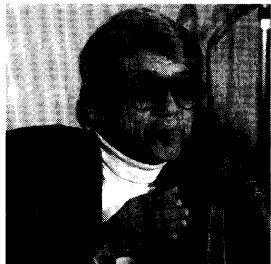
に使用された、中国人、欧米人、日本人の誰が撮影したか不明な写真を多く掲載。

さらに、その写真の説明は元本と異なる改竄されたものを使用

\*18 このタイトルから南京大虐殺否定派は「まぼろし派」と呼ばれるようになる。ワック出版より復刊

# ●南京問題詳細年表

一九七九年	史出版会) 発刊
一九八〇年	中国初級中学用の歴史教科書が「殺害されたものは三十万をくだらなかつた」と記述
一九八一年	南京事件を取り上げた教科書、中学で五社に増加 *19
一九八二年	本多勝一「中国の旅」文庫化 洞富雄「南京大虐殺―決定版」(徳間書店) 発刊。「死んだ中国軍民は二十万人をくだらなかつたであろうと推測される」
六月二六日	教科書の「侵略」を「進出」に書き換えたとの朝日新聞の大誤報。中国、韓国が猛反発
八月二六日	中国、韓国からの反発を受けて、宮沢喜一官房長官談話を発表。「近隣諸国条項」を規定 *20
九月七日	サンケイ(現産経)新聞だけが「教科書書き換え問題」の誤報を訂正・謝罪
一九八三年	南京事件の教科書記述、中学は七社全社、高校は五社のうちの四社。虐殺人数については「十万〜三十万以上」 *21
一九八四年	中学・高校教科書の南京虐殺に関する記述抹消を求め



本多勝一氏

\*19 人数は「多数」とはかすなど抑制された表現

\*20 過去、中国・韓国に多大な苦痛を与えたことを考慮して教科書検定を行なう、という内容

\*21 上杉千年氏は「文部省検定から日教組検定に転換したせいだ」と分析。(参考) この年には「従軍慰安婦」問題の事実上の発端となる吉田清治『私の戦争犯罪―朝鮮人強制連行』(三一書房) 発刊



て、文部大臣を相手取り、田中正明氏、畝本正巳氏（元防衛大教授）が提訴

八月五日

朝日新聞「南京虐殺／現場の心情／宮崎で発見／元従軍

兵士の日記」を報道 \*22

田中正明「南京虐殺の虚構―松井大将の日記をめぐって」

（日本教文社）発行

『歴史と人物』が「南京攻略戦・中島第十六師団長日記」

掲載 \*23

日教組の白書で「アウシュビッツIIナンキンIIヒロシマ」

と位置づけ、南京事件の記載を「絶対条件」に

『諸君！』が「『虐殺派』『中間派』『まぼろし派』全員集

合」を掲載

「靖国参拝問題」が持ち上がる

八月二〇日

阿羅健一氏が、南京事件後に十一万あまりの遺体を処理

したとされていた「崇善堂」が、実際は活動していなかつたことを突き止める。産経新聞のスクープ

八月二六日

南京大屠殺記念館開館。「遭難者三〇〇〇〇」と掲げられる

\*22 内容は元上等兵の遺族が提供した日誌から「今日もまた罪もないニーヤを

……半殺しにしたのを堀の中に入れて頭から火をつけてなぶり殺しにする」との記述。宮崎県下の連隊戦友会が抗議

\*23 陸軍士官学校卒業生の親睦団体で

ある偕行社が機関誌の「偕行」誌上でシ

ロの証言を期待して情報を求めたところ灰色、ないしはクロの情報も集まってきた。またこれに刺激されてマスコミがク

ロの資料と証言を掘りおこす事態が出現

する中、中島第十六師団長日記が掲載さ

れ、衝撃を与えた。中島はサディズム的性癖があり、南京虐殺の中心人物とされて

いた。日記の記述にも「大体捕虜ハセヌ方針ナレバ」などの記述があった（秦

郁彦「南京事件」による）

一九八五年

# ●南京問題詳細年表

一九八六年	二月	<p>板倉由明氏が、田中正明氏の「松井大将陣中日記改竄」を指摘。朝日新聞が報道 *24</p> <p>朝日新聞が二日続けて田中氏の改竄を報道</p> <p>藤原彰『南京大虐殺』（岩波書店）発刊</p> <p>秦郁彦『南京事件―「虐殺」の構造』（中公新書）発刊。</p> <p>不法殺害四万人との記述</p> <p>吉田裕『天皇の軍隊と南京事件―もうひとつの日中戦争史』（青木書店）発刊</p> <p>中曽根首相が八月十五日に靖国参拝しないことを公式発表</p>
一九八七年	八月二四日	<p>朝日新聞が「『南京虐殺』元上等兵が告白 5000人を一斉射撃」と報道。担当は本多勝一氏（当時編集委員）</p> <p>阿羅健一『聞き書 南京事件』（図書出版）発刊 *25</p> <p>田中正明『南京事件の総括―虐殺否定十五の論拠』（謙光社）発刊</p> <p>東史郎氏の「郵便袋」発言。上官が捕らえた中国人を郵便袋に入れて、ガソリンをかけて火をつけ、手榴弾三個を結びつけて爆殺したと告発</p>
	二月八日	<p>朝日新聞が「『南京虐殺』元上等兵が告白 5000人を一斉射撃」と報道。担当は本多勝一氏（当時編集委員）</p> <p>阿羅健一『聞き書 南京事件』（図書出版）発刊 *25</p> <p>田中正明『南京事件の総括―虐殺否定十五の論拠』（謙光社）発刊</p> <p>東史郎氏の「郵便袋」発言。上官が捕らえた中国人を郵便袋に入れて、ガソリンをかけて火をつけ、手榴弾三個を結びつけて爆殺したと告発</p>



南京大虐殺記念館

\*24 田中氏は「体調などの悪条件が重なりミスしたもので、決して虐殺は虚構だ」という自分の主張にあわせて加筆や削除したのではない」「誤字や仮名遣いの修正」と釈明

\*25 証言者は全て実名公表。現在は『南京事件 日本人四十八人の証言』（小学館文庫）に改題

二月 本多勝一「南京への道」(朝日新聞社) 発行

三月 東史郎氏が中国人二人を軍刀で斬首したと告白

一九八八年 四月 奥野誠亮国土庁長官が「南京虐殺事件の宣伝はよくない」と中国を批判。その後、奥野長官は辞任

一二月 「百人斬り」報道の向井少尉の次女、向井千恵子氏が「諸君！」に手記を発表

一九八九年 南京戦史編集委員会編「南京戦史」(偕行社) 発行。南京では三千人から六千人が虐殺されたと記述

一九九〇年 一二月二六日 石原慎太郎衆院議員の「南京大虐殺は中国人の作り話」発言に抗議して、中国系米国人団体がニューヨーク・タイムズに反論全面広告を掲載

朝日新聞が「南京大虐殺 まぼろしのフィルムを発見」

一九九一年 七月 「新華社が詳しく報道」と連日報道 \*26

一九九二年 一月 加藤紘一官房長官が櫻井よしこ氏の取材に対して「三十万人でも三千人でも、一般市民を虐殺したら、されたほうは虐殺だと思っ」と発言

一〇月二三日 天皇陛下が中国ご訪問。これに先立つ十八日、在米中国人団体がニューヨーク・タイムズに「南京など日本軍

(参考) 一九八九年「従軍慰安婦問題」では日本の主婦、青柳敦子氏が韓国で「慰安婦裁判の原告募集」のピラをまく

(参考) 一九九二年一月十一日、朝日新聞が一面で吉見義明中央大学教授の防衛研究所における資料発見を「慰安所、軍閥与示す資料」と歪曲報道。これを受け、一月十三日、加藤紘一官房長官が事実調査の前に「お詫びと反省」の談話発表。十六日には韓国を訪問した宮澤喜一首相が首脳会談で八回謝罪

(参考) 一九九三年「従軍慰安婦」問題では八月四日に旧日本軍の強制連行を認める「河野談話」発表

# ●南京問題詳細年表

一九九三年	一九九四年	五月	八月五日	八月二二日	一九九五年
<p>の行いに対する）天皇の謝罪」を求める全面意見広告掲載</p> <p>東史郎氏に「中国人を爆殺した」とされた橋本光治氏が事実無根として東京地裁に提訴。郵便袋による殺害は物理的に不可能とされ、橋本氏が勝訴</p> <p>東史郎氏がアメリカ力講演旅行の際に入国拒否される。中国が不問に付した斬首事件が理由</p>	<p>永野茂門法相が南京大虐殺について「でっちあげだと思え」と発言。中国、韓国が反発。永野氏は就任後わずか十一日で更迭 *27</p> <p>南京大虐殺の生き残りとな名乗り出た夏淑琴氏が初来日</p> <p>朝日新聞が夕刊で（一九三七年の同日）「日本軍、『南京大虐殺』開始」と見出し *28</p> <p>藤岡信勝氏が自由主義史観研究会を設立</p> <p>映画『南京1937』、南京市内で封切り</p> <p>村山富市首相が「村山談話」発表</p> <p>ニューヨーク・タイムズが「南京大虐殺はなかった」との意見広告を掲載拒否 *29</p>	<p>五月</p>	<p>八月五日</p>	<p>八月二二日</p>	<p>一九九五年</p>
<p>*26 撮影者はマギー牧師で「マギーフィルム」と呼ばれる。マギー牧師は東京裁判で証人として出廷し、日本軍の組織的な「殺戮行為」を証言しながら、フィルムを証拠として提出していない。フィルムは無声フィルムであるため、いつ、どこで、誰が何をしているかを示す音声はない</p>	<p>*27 永野法相は事件後、自らが南京を訪れた時の体験を踏まえ、「世上、伝えられるような大虐殺があったとは思わなかった。ただし、戦争に付随するような虐殺等の侵略行為があったことは否定できない」とも語っている</p>	<p>*28 十三日夜から十五日にかけてすさまじい「残敵掃蕩戦」が行われる。「大虐殺」の犠牲者の数には論争があつて定まらない」と記述</p>			

一九九六年 三月

長崎原爆資料館の南京大虐殺の展示を巡って、建国記念の日に奉祝行事を主催している「長崎日の丸会」のメンバー加害展示の内容で反発

七月二五日

「現代用語の基礎知識」（自由国民社）で南京事件の被害者数を「百万人説もある」と記載していることが判明  
\* 30

一月四日

産経新聞が中国の歴史教育に関し、「南京事件」を「日本軍による血生臭い大虐殺」と教えていると報道

一月六日

中国南京市教育局が愛国主義教育のため南京大屠殺記念館の参観を義務付ける規定を定める

二月二日

「新しい歴史教科書をつくる会」結成  
藤原彰「南京の日本軍―南京大虐殺とその背景」（大月書店）発刊

一九九七年

八月

一〇月

ジョン・ラーベ「南京の真実」（講談社）発刊

ドイツの週刊誌「シュピーゲル」が書評欄で、ラーベの著書について「中国がこの数字を握りしめて離さないのは、文化大革命で毛沢東主義が自国民にやってのけた大量虐殺から目をそらせる効果を狙ったことだろう」と

\* 29 拒否理由は「タイムズ紙の広告としての品格基準に満たない」。掲載を求めたのは「青年自由党」という政治団体

\* 30 その後に続けて「あるいは少なめにみても二、三〇万人の命が奪われた」と記述

（参考）九七年度版で初めて中学歴史教科書で「従軍慰安婦」を取り上げる

\* 31 「三年前、現職首相の時、（日中戦争の引き金になった）盧溝橋を初めて訪れて以来、南京を訪問しなかった。見るに堪えない残虐行為に何ともいえない気持ちだ。こうした歴史をかがみとし、二度と過ちを繰り返さないよう改めて決意を強めた」

# ●南京問題詳細年表

一月	アイリス・チャンが『レイプ・オブ・南京』発刊
二月	シンポジウムで笠原十九司が「ラーベは五万〜六万と言っているが、彼の目が届かない郊外や南京を去ったあとの犠牲者を足すと三十万くらいになるはず」と発言。中国代表団の孫宅魏が「南京城内だけで三十万だ」と異議
二月二三日	南京で慰霊祭。六十周年を記念して過去最大規模。日本国内でも一年を通じて各地でシンポジウムや講演会が行なわれる
五月九日	野中弘務氏が南京大屠殺記念館を訪問。自民首脳級で初めて
五月二四日	村山富市前首相が南京入り。翌日南京大屠殺記念館へ
一九九九年	* 31 笠原十九司『南京事件と三光作戦―未来に生かす戦争の記憶』（大月書店）が「三光作戦は南京より重大で深刻」と記述
四月三〇日	アイリス・チャンがヒラリー夫人と非公式に会見 * 32
五月一八日	『レイプ・オブ・南京』について、出版元のベーシック

評す

\* 32 チャンは南京事件とともに七三一部隊の実態について説明。大統領夫人に日本政府の戦争犯罪への公式謝罪と損害賠償を求める議会決議案への支持を訴えた。夫人は、こうした歴史をよく知らなかったと認め、もっと知りたいと語った



アイリス・チャン

ブックスタが日本語版の出版を予定していた柏書房との  
契約を解除 \* 33

九月三〇日

藤岡信勝氏らが外国特派員協会で講演し、南京の「虐殺」  
を捏造と指摘

一〇月

南京事件調査研究会編「南京大虐殺否定論13のウソ」  
(柏書房) 発刊 \* 34

二〇〇〇年  
一月三三日

南京大虐殺を検証する大坂の講演会に、南京市や唐家璇  
が抗議 \* 35

一〇月二八日

一月

日本「南京」学会誕生。初代会長は東中野修道氏  
南京大虐殺で被害を受けたとする江蘇省南京市在任の夏  
淑琴氏が「嘘の証言者とされた」として展転社と東中野  
修道氏を南京市中級人民法院に提訴 \* 36

北村稔『「南京事件」の探究―その実像をもとめて』(文  
春新書) 発刊

二〇〇一年

「新しい歴史教科書」が検定合格

四月

六月

田中正明氏の英文著書「WHAT REALLY HAPPENED  
IN NANKING」(南京で実際に何が起こったのか)世界  
出版社刊) がネット書店アマゾンにより全世界で入手可

\* 33 アイリス・チャン側が事実誤認の  
記述やニセ写真の修正を拒否したため

\* 34 著者は井上久士、小野賢二、笠原  
十九司、藤原彰、本多勝一、渡辺春巳。

その中で本多勝一氏は百人斬りに触れ、  
「刀の性能から百人斬りが捏造だと言っ  
たら、幕末の剣豪の話はすべて嘘になる」  
とトンデモ発言

\* 35 青木幹夫官房長官は「旧日本軍の  
非戦闘員の殺害、略奪行為があったこと  
は否定できない事実であり、政府の考え  
は何ら変わっていない」と述べた

\* 36 中国の法廷には国際裁判管轄権が  
ないので、出廷の義務はない

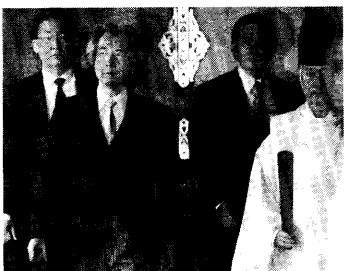
\* 37 そのほかの会社は「大勢」「多数の」  
などと記述

\* 38 市民からの反対の電話は数百件に  
及び、八割が「変更反対」だった

# ●南京問題詳細年表

二〇〇二年	二〇〇三年
八月二三日	一月
<p>能に 小泉首相が靖国参拝 南京犠牲者数を明記している教科書が二社に減る *37</p>	<p>八月 大坂の女性教師・松岡環編『南京戦 閉ざされた記憶を尋ねて―元兵士102人の証言』（社会評論社）発刊 *38 夏淑琴裁判を受けて、展転社と東中野修道氏が東京地裁へ「債務不存在確認訴訟」</p>
三月	三月
<p>中国・南京の政治協商会議メンバーが、南京大虐殺を記念した「南京大虐殺受難同胞記念館」を「南京国際平和センター」に改名すべきだと主張したことを朝日新聞が報道 *39</p>	<p>山川出版社『詳説日本史』（高校教科書）が「南京の犠牲者数は数万人〜四十万人に及ぶ説がある」と記載 *40</p>
三月一日	四月二八日
<p>ティンバーリ『戦争とは何か』が中国国民党の宣伝書籍だったことを示す極秘文書を東中野修道氏が台湾で発掘 *41</p>	<p>「百人斬り」報道の向井・野田両少尉の遺族が、毎日新</p>

\*39 二十一年間で南京を二十回以上訪問していると主張している



小泉首相靖国参拝

\*40 秦郁彦氏はこれについて「出所不明の『四十万』には驚かされた」（『南京事件』中公新書）

\*41 正式名称は、台湾の国民党党史館で発掘された国民党宣伝部の「極機密」文書『中央宣伝部国際宣伝処工作概要』（一九四一年）



聞、朝日新聞、本多勝一氏を提訴

七月

富澤繁信『南京事件の核心—データベースによる事件の解明』（展転社）発刊。諸情報をデータベース化し、分析するという画期的手法をとった

七月三二日

旧陸軍第六師団（熊本）の将兵が南京戦の模様をつづった『第六師団転戦実話南京編』が、東中野修道・亜細亜大  
学教授の手で発見された \*42

八月

松岡環編『南京戦・切りさかれた受難者の魂—被害者120人の証言』（社会評論社）発刊

南京大屠殺記念館の入館料が無料に

八月一五日

松岡環氏が南京事件に関する活動で、虐殺記念館から表彰される

一〇月

本宮ひろ志「国が燃える」（週刊ヤングジャンプ・集英社）の南京事件を巡る記述に不適切な表現があったとして抗議殺到。休載に \*43

一一月九日

アイリス・チャンが自殺

二〇〇五年

南京大屠殺記念館がジョン・ラーベとアイリス・チャンの銅像を陳列 \*44

\*42 「転戦実話」によれば、六師団が突

入した中華門付近には「約二百五十の敵死体」が目撃されただけだ。しかも、六

師団は南京陥落から三日後の十二月十六日には南京から揚子江上流の蕪湖に転戦

しており、十日間も南京にとどまっていなかった」と報道

\*43 削除・修正の対象になったのは、

（1）いわゆる「百人斬り」を連想させるシーン、（2）過剰な虐殺のイメージを想起させるシーン、（3）真偽不明の写真に

もとづいて描かれたシーン

\*44 面積三倍、展示物を十倍に増やす工事を始める。ユネスコへ世界遺産の登録を目指す

# ●南京問題詳細年表

二〇〇六年

四月二〇日

八月三日

北京で一万人規模の反日デモが発生  
百人斬り訴訟、東京地裁が「当時の記事内容が一見して明白に虚偽である」とまではいえない」として原告の請求を棄却

東中野修道「南京事件「証拠写真」を検証する」（草思社）発刊。南京虐殺の証拠写真とされているもののうち百四十三枚を検証、証拠能力のある写真はゼロと判明

東史郎氏が死去。中国は異例の追悼

一月三日

クリント・イーストウッド監督・メリル・ストリープ主演で「南京大虐殺」関連映画が製作されると一部中国紙が報道 \*45

五月

夏淑琴氏と日本の弁護士団が展転社、東中野修道氏を「名誉毀損」で東京地裁に提訴

七月一七日

古賀誠議員が南京虐殺記念館を訪問 \*46

八月一八日

朝日新聞が「南京虐殺を題材に3映画 来年70年、中国で制作計画」と報道。「国際的にも関心を呼びそうだと煽る

八月三日

夏淑琴氏が南京市の法廷で起こした裁判で、展転社など

\*45 後日イーストウッド氏の代理人が「全く事実と反する」と説明

\*46 「過去を忘れず未来を大事にする」という中国側の姿勢に心の豊かさを感じた」とコメント

(参考)二〇〇六年、九月十三日には米下院国際関係委員会が「慰安婦問題」で日本政府を非難する決議案を議決



「虐殺」捏造写真

二〇〇七年

九月

に賠償、出版差し止め命令  
本多勝一氏、洞富雄氏が南京大屠殺記念館から「特別賞  
献賞」をもらう

一二月一三日

初の民間戦争記念館「南京民間抗日戦争史料陳列館」が  
南京に開館

一月二四日

チャネル桜（代表・水島総）が中心となり、映画「南  
京の真実」製作発表

一月三〇日

張連紅・南京師範大学教授（南京大屠殺研究センター主  
任）と程兆奇・上海社会科学学院歴史研究所研究員が講演、  
「二十万人に学術的根拠はない」と発言

二月一日

アイリス・チャンの銅像が中国対外宣伝組織・中国人権  
発展基金会からスタンフォード大学に寄贈される \*47

五月二五日

産経新聞が一九三七年十一月の蒋介石の月間総括文を報  
道。国民党の軍規の乱れを嘆く内容

六月一九日

自民党有志の結成した日本の前途と歴史教育を考える議  
員の会、南京問題小委員会が総括記者会見

八月二三日

二〇〇七年 八月十三日 「南京大屠殺の犠牲者リスト」  
と「南京大屠殺の生存者リスト」が南京で出版。「犠牲

（参考）二〇〇七年一月三十一日にマイ

ク・ホンダら六人の民主党米下院議員が  
共同署名で慰安婦問題に関する対日非難  
決議案を提出。六月二十六日には米下院  
外交委員会で「慰安婦」決議案が可決さ  
れた

\*47 寄贈式には駐サンフランシスコ中  
国総領事館員が出席。南京大屠殺記念館の  
銅像とお揃い



南京入城

●南京問題詳細年表

一月二日

者リスト」に八千二百四十二人、「生存者リスト」は二千五百九十二人が記載されていると中国国際放送局 日本語部が発表 \*48

東中野修道『再現 南京戦』（草思社）発刊

『南京虐殺』の徹底検証』の記述をめぐる訴訟で東京地裁判決。出版社の展転社と著者の東中野修道氏に夏淑琴氏に慰謝料の支払いを命じた。東中野氏は「非常に心外だ。控訴する方針だ」とのコメント \*49

\*48 「被害者リスト」のうち五十歳以上は千五百十人で、子供が二百六十二人。編集者いわく「リストの収集作業は始まったばかりで、これからも関連資料の収集を続け、新しいリストを改めて出版する」とのこと

\*49 「南京大虐殺」の生き残り主張している中国人の女性を該当書籍の中で「生き残った少女とは別人だ」と指摘した件